

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	こどもサポート教室「クラ・ゼミ」札幌東苗穂校		
○保護者評価実施期間	2024年 10月 10日		~ 2024年 12月 10日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	12	(回答者数) 10
○従業者評価実施期間	2024年 10月 10日		~ 2024年 12月 10日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数) 5
○事業者向け自己評価表作成日	2024年 12月 15日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	<ul style="list-style-type: none"> 利用者様が安心感をもって通所している。 利用者様が通所を楽しみにしている。 保護者様が事業所の支援に満足している。 	利用者様が安心して活動に取り組むことができ、楽しみを持って来所してもらえるよう、活動内容を工夫している。充実した療育活動により、保護者様の満足感に繋がっていると考えている。	さらに工夫に富んだプログラムを組むことが出来るよう、職員へ研修参加や他校舎見学等の自己研鑽の場を提供していきたい。
2	<ul style="list-style-type: none"> 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、活動に合わせた空間となっている。 	清掃を欠かさず、清潔な環境を提供している。また、利用者様の特性や活動内容に合わせた、景色の見える開放的な部屋や、視覚刺激を意図的に抑えた部屋などを提供している。	構造上、夏の暑さや冬の寒さを感じやすいので、適切な空調設備導入を検討していく。
3	<ul style="list-style-type: none"> 利用者様のことを十分理解し、利用者様と保護者様のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されている。 利用者様の特性等に応じた専門性のある支援を提供している。 	定期的なアセスメントや担当者会議を開催することはもちろん、送迎時の日常会話や何気ない言動から利用者様や保護者様の様子やニーズを確認している。また、定期的な自社研修へ職員が参加し、専門知識習得に努めている。	自事業所のみならず学校や園、他事業所など利用者様を取り巻く多くの方が参加できる担当者会議を積極的に開催し、自事業所利用中以外のニーズや課題についても、アンテナを高く張っていきたい。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	<ul style="list-style-type: none"> 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がない。 	事業所としての療育内容が「完全個別」に特化しているため。	地域の方が参加可能なイベントを企画し、開かれた事業所を目指していく。
2	<ul style="list-style-type: none"> 父母の会の活動の支援や保護者会等の開催、保護者様同士の交流の場の提供など、家族への支援がされていない。 また、きょうだい向けのイベントの開催等、きょうだい同士の交流の場の提供など、きょうだいへの支援がされていない。 	保護者様向けイベントが外部講師を招いての実施が主で、その頻度も少なかった。	全社的にペアレント・トレーニングの知識習得やスキルアップに努め、教室毎に多くの開催を目指す。
3	<ul style="list-style-type: none"> 事業所の活動プログラムが固定化されがちである。 	保護者様のニーズとして「就学準備」が強く、文字や数の習得を目指した活動が多くなってしまっている。	利用者様の成長を支えるための指標として用いられる5つの領域の観点から、様々な内容の活動を提供していきます。

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 こどもサポート教室「クラ・ゼミ」札幌東苗穂校

公表日 2025年 2月 15日

利用児童数 12

回収数 10

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制 整備	1 こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	9	1				
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	9			1	担任の先生がよく変わる。 (仕方ないとは思っている)	人事異動に関しては慎重に協議を重ねて 実施いたします。また職員が長く働いて いける環境を整えていきます。
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	7	1		2		
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	10					
適切 な 支 援 の 提 供	5 こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	10					
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	10					
	7 こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	10					
	8 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	8				2	
	9 児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	10					
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	6	2		2		
保 護 者 へ の 説 明 等	11 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。	3		2	5		
	12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	10					
	13 「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	10					
	14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	5	1	3	1	機会があれば、家でも出来ることを知っ てみたい。	提携している「発達支援研究所」主催の 相談会のご案内をいたします。また、事 業所でもそのようなイベントの実施を検 討します。
	15 日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていますか。	9	1			小学校にむけての支援はどんなものかあ るか知りたいです。	通信や連絡帳を通して、支援の内容や方 法について、お伝えしていこうと思いま す。
	16 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	7	1	1	1		
	17 事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	9				1	
	18 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	3	1	2	4		

	19	子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	10					
	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	9			1		
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	8	1		1		
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	10					
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	7			3		
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	6			4		
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	8			2		
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	9			1		
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	10				はい、とても。	ありがとうございます。「失敗しても大丈夫」と感じられ、進んで様々なチャレンジをして頂ける事業所を目指します。
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	10				はい、とても。	ありがとうございます。職員一同も、お子様とお会い出来ることを楽しみにしております。
	29	事業所の支援に満足していますか。	10					

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		こどもサポート教室「クラ・ゼミ」札幌東亜穂校				公表日	2025年 2月 15日
環境・体制整備	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	5		ガイドラインに則ったスペースを確保している。	身体を動かす活動が出来るスペースの確保は難しい。	
2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	5		配置基準人員数を厳守し、運営している。	急な職員の欠席に対応できるほどの余裕を持った人員配置には至っていない。		
3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	5		極力視覚刺激を排除した空間を提供している。	スロープや手すりが未設置など、バリアフリー化には至っていない。		
4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	5		自由時間に使えるおもちゃ等がこども達に見やすい場所に並べてある。	校舎の老朽化が進んでいる。		
5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	5		パーティションで仕切られた空間、完全個室など、状況に合わせて使用できる部屋を提供している。	建物、他者の声が響きやすい構造となっている。		
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	5		会議を定期的開催し、全ての職員が運営に参加している。	具体的な数値目標を全員が把握し続けることは出来ていない。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5		保護者様向け評価表の内容を全員が確認し、業務改善につなげている。	返答頂いていない保護者様もおられるので、100%の回答を目指す。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5		打ち合わせの機会を多く設け、発言しやすい環境を提供している。	今以上に1on1面談の機会を多く設けていきたい。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	2	3	保護者様向け評価の実施のみであり、第三者による外部評価は行っていない。	事業所評価・内部監査の実施で業務改善を行っていく。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内で研修を開催する機会が確保されているか。	5		本社主催研修の他に、北海道内独自の研修を行い、職員の資質向上に努めている。	外部研修に参加する機会に限られている。	
適切な支援の提...	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	5		個別支援計画に基づき、支援プログラムを作成している。	細かな内容に関する公表は実施出来ていないので、その方法を検討していく。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	5		6カ月毎にニーズや課題を見直し、個別支援計画を作成している。	時期に関わらず、目標の達成度に応じて適切なタイミングで支援計画の更新を行ってきたい。	
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	5		指導員の職員の意見を十分に取り入れた支援計画の作成を行っている。	個別療育中心の事業所の為、療育担当以外の職員は共通理解が難しいケースもある。	
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	5		計画書は職員がいつでも閲覧可能な場所に保管されており、その情報共有に努めている。	個別療育中心の事業所の為、療育担当以外の職員は共通理解が難しいケースもある。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	5		全社共通のツールを用いて、標準化されたアセスメントを行っている。また日々の観察から得られた気付きを都度職員間で共有している。	見直し時期が半年～1年に1回程度なので、その頻度を高めていかなければならない。	
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	5		ガイドラインに則った5領域を網羅した支援計画を作成している。	「地域支援・地域連携」項目に関しては、事業所の特性に合わせた形で実施していく。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	5		モニタリング会議や支援会議を開催し、チームとして活動プログラムを作成している。	個別療育中心の事業所の為、療育担当以外の職員は共通理解が難しいケースもある。	

供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	5		授業進度や長期休業に合わせ、活動プログラムを工夫している。	学習支援に偏った活動になってしまわないよう、バリエーション豊かな活動を提供していく。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	4	1	個別療育、小集団療育を組み合わせる支援を行っている。	それぞれの活動を個別支援計画に落とし込んで実施するには至っていないので、今後は広い視野を持った計画を作成していく。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	5		毎朝の朝礼や午前中を利用して、当日の支援に関する打ち合わせを十二分に行っている。	職員の業務負担の偏りが生じないよう、留意していく。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	5		終礼を行い、当日の振り返りや情報共有を全員で行っている。	当日休日の職員に対しても、同じく情報が共有できる仕組み作りが必要。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	5		日々の支援を記録に残し、5年間いつでも振り返りが可能な状態で保管している。	支援記録を全員で見直し、支援を検証する機会はあまり設けられていない。
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	5		6カ月毎にニーズや課題を見直し、モニタリング会議を実施し、個別支援計画を作成している。	今後は時期に関わらず、目標の達成度に応じて適切なタイミングで支援計画の更新を行っていく。
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	3	2	会議が実施される際には児童発達支援管理責任者や管理者が出席している。	支援担当職員の積極的な参加を目指す。
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	3	2	各支援会議や担当者会議の他、送迎の際に情報共有を行うなど、連携を図っている。	今後は当事業所が中心となって、各会議の実施を呼びかけていく権がある。
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	5		日々の支援の他、送迎の際に情報共有を行うなど、連携を図っている。	移行支援にも、力をいれていく必要がある。
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	2	3	保護者様を通して、就学時健診の際の様子などを伝えてもらっている。	学校の先生などとの、直接の連携は行えていないので、必要に応じて実施していく。
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域子ども・子育て会議等積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	2	3	必要に応じて、センターとの連携を図っている。	今後はスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けていく。
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	2	3	地域の人々が参加できるイベントを企画し、実施している。	感染症拡大の影響から頻度を減らしていたが社会状況を考慮し、より多くの開催を検討していく。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	5		療育内容について毎回連絡帳に記載し、保護者様へ渡している。送迎時にお会い出来る保護者には都度、お伝えしている。	直接お会いできない保護者様に対する情報共有方法の改善を目指す。
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	5		提携している「発達支援研究所」主催の講演会や質問会を実施している。	必要に応じて事業所単位でのペアレント・トレーニングや研修の開催を検討する。
35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	5		契約時や問い合わせがあった際、丁寧な説明を行っている。	管理者以外の職員も、同様の説明が出来るように知識の習得を目指す。	
36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	5		作成した支援計画は、その都度保護者様に確認していただいている。	説明はどうしても早足になってしまうので、十分な面談時間を確保し丁寧な面談を実施していく。	

保護者への説明等	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	5		支援内容の説明を行い、保護者様から同意を頂いている。	説明はどうしても早足になってしまうので、十分な面談時間を確保し丁寧な面談を実施していく。
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	5		保護者様からお悩みや質問を受けた際には、適切な助言、支援を行っている。	全てのご家庭との面談実施を目指していく。
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	5		提携している「発達支援研究所」主催の講演会や質問会を実施している。	必要に応じて事業所単位でのペアレント・トレーニングや研修の開催を検討する。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	5		保護者様から相談、面談の申入れがあった際には、早急に対応可能日をお伝えする体制を整えている。	事前に対応可能日をお伝えするなど、周知していく必要がある。
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	5		毎月通信を発行し、ブログの更新によって事業所の様子をお伝えしている。	必要に応じ、その他SNSの活用を検討していく。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	5		使用目的を明確にし、退勤時には鍵付きの書庫にて保管を徹底している。	重要書類等の保管用に、耐火金庫等の導入も必要に応じ検討していく。
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	5		わかりやすい言葉で完結に、必要な情報を伝達している。	点字や手話の活用などは現状難しい。必要に応じ、職員全体で習得する。
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	5		地域の人々が参加できるイベントを企画し、実施している。	感染症拡大の影響から頻度を減らしていたが社会状況を考慮し、より多くの開催を検討していく。
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	5		各種マニュアルを策定し、計画的に研修や訓練を実施している。	左記を保護者様に周知する場面は限られていたので、漏れなくお伝えしていく。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	5		業務継続計画（BCP）の策定、災害発生に備えた避難、救出その他必要な訓練を行っている。	実施開始から日が浅いため、今後より経験値を高めていく。
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	5		契約時に必要な情報は提供している。	服薬における注意点や発作時の応急処置方法など、職員の専門的な知識習得を図る。
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	3	2	食品を扱う際には、事前にアレルギー有無に関するアンケートを実施している。	安全を第一にしながらも、アレルギーの有無により活動の楽しみを減らしてしまうことのないよう、留意する。
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	5		安全計画の作成、研修や訓練の実施など、安全の確保がされた中で支援を提供している。	今後も継続して、事故のない安全な活動環境を提供していく。
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	5		安全計画に関して、契約時にその内容を説明している。	契約時に限らず、日頃より意識的に周知していく。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	5		ヒヤリハットが発生した際には事業所内だけではなく、北海道全ての教室の職員が情報共有できる仕組み作りをしている。	軽微なヒヤリハットに関しても、今まで以上に再発防止に取り組んでいく。
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	5		定期的に虐待防止研修を行っている他、職員に対し面談の場を設け、心理的負担の軽減を図っている。	今まで以上に、職員が負担を吐き出し全員で解決することがしやすい環境を構築していく。
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	5		ガイドラインを策定し、定期的な研修を通して職員へ通達している。また個別支援計画にも漏れなく記載している。	保護者様へは契約時に説明しているが、契約時に限らず日頃より意識的に周知していく。	